



国際ロータリー第2790地区

千葉南ロータリークラブ週報

THE ROTARY CLUB OF CHIBA SOUTH

創立	1964年3月2日	例会日	毎金曜日12時30分	例会場	オークラ千葉ホテル
会長	榊原 行夫	幹事	小林 透	雑誌会報委員長	瀬谷 研一
事務局	〒260-0027 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階			TEL	043-245-3204

2010年9月第2週号

第2282回



平成22年9月10日(金) 点鐘12:30 (晴れ)

- ◆ロータリーソング 『我等の生業』
- ◆四つのテスト ~言行はこれに照らしてから~

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

◆お客様紹介

- 本日のゲストスピーカー／千葉市地域でいき生きる会
代表 高村 リユウ様
- 千葉市地域で生きる会 事務局 下平 良子様
- 共に育つ教育を進める千葉県連合会
代表 五十嵐 玉枝様

■ 会長挨拶及び報告 榊原 行夫会長

◇地区広報・IT委員会より、千葉国体・千葉スポーツ大会の協力依頼がきております。「ようこそ選手団・お迎えバッジ」を作成したので、各クラブ会員一人500円の支援金をお願いするというものです。当クラブは、会員の皆様のご負担はなく予備費から20,000円を捻出することにしましたので、宜しくお願い致します。

◇市原RCより、外部講師例会へのお誘い

日時⇒ 平成22年9月15日(水)
食事12:00 講演 講演12:30
場所⇒ 五井グランドホテル例会場
講師⇒ 小池 正一郎氏
(キャンリバーグループ 東京事務所代表)

出席ご希望の方は、事務局までお知らせ願います。

■ 委員会報告

親睦委員会より (北原俊彦委員長)

CSR(Chiba South Rotary Club)ゴルフ会報告

優勝⇒ 伊藤和夫会員



2位⇒ 杉本峰康会員 3位⇒ 植松省自会員



■ 幹事報告

小林 透幹事

次週の例会は、ガバナー公式訪問です。例会終了後、クラブ協議会があります。大勢の方のご出席を宜しくお願い致します。

■ ニコニコボックス報告

☆植松 省自会員

高村様、本日の卓話、宜しくお願い申し上げます。

☆五十嵐 博章会員

高村様、下平様、そして私の妻、ようこそお越し下さいました。高村様、卓話を宜しくお願い致します。

☆伊藤 和夫会員

9月9日、CSRゴルフコンペに参加しました。千葉緑RCの方3名と当クラブ8名の11名のメンバーで、大網のヌーヴェルゴルフ倶楽部で行われました。台風の心配もありましたが、素晴らしい天気にも恵まれ、楽しい一日でした。お蔭さまで優勝することが出来ました。有難うございました。

☆北原 俊彦・竹尾 白会員

昨日のCSRゴルフ会で、我がクラブの伊藤さんが優勝しました。千葉緑RCからも3名出場してくれましたが、伊藤さんの優勝でホットしました。伊藤さん、おめでとうございます。

本日のニコニコボックス	9,000円	累計	239,000円
金の箱	985円	累計	9,480円



■ 出席報告 (会員数40名)

出席者数29	欠席者数11	ビジター 3	修正出席率76.92 %
--------	--------	--------	--------------

千葉県内例会変更のご案内 [メーキャップにご利用下さい](#)

千葉RC	月	9/27	三井ガーデンホテル千葉
千葉西RC	火	9/28	センシティタワー「東天紅」
千葉幕張RC	火	9/28	アパホテル&リゾート東京ベイ
新千葉RC	水	—	京成ホテルミラマーレ
千葉北RC	水	—	ホテルポートプラザちば
千葉中央RC	木	9/30	三井ガーデンホテル千葉
千葉港RC	木	9/16	京成ホテルミラマーレ

☆☆☆ 本日の卓話 ☆☆☆

演 題…『障害のある子どもみんなと一緒に
～私達の活動から見える教育最新事情～』
卓話者… 千葉市地域で生きる会
代表 高村 リュウ様



皆様こんにちは。「千葉市地域で生きる会」の高村です。今日は皆様の貴重な勉強会でお話しする機会を頂きまして有難うございます。例会はもっとお堅いものかと思っておりましたが、とても和やかな雰囲気なので私もリラックスしてお話し出来るのではと安心しております。

さて、早速本題に入らせていただきます。今日は障害のある子の教育の最新事情ということでお話をさせていただきます。私は障害のある子の親です。難しい話は出来ませんが現場で起きていること、肌で感じていることを自分の言葉でお伝えしたいと思います。

障害のある子が生まれますと、親は大きなショックを受けます。大きな不安のひとつは、子どもの将来のことです。幼稚園に入れるのだろうか、保育所に入れるのだろうか、学校は？ 社会に出たら雇ってくれる会社はあるのだろうかといった心配が津波のように襲ってきました。実際に育ててみて、これは生きていくのがたいへんだなと思うことがあります。保育所に入れたい、幼稚園に入れたい、学校も難しそう。さらに、スイミングスクールに入れたい、〇〇教室に入れてもらえない。障害のある子だからと断られてしまうことが沢山あります。同じように自分の子供がいろいろなところに入れてもらえない仲間が集まって声を挙げていきましょうということでこの会に参加させていただきました。

10年前の千葉市では3歳で歩けない子供は保育所に入れないという、基準表がありました。当事者の方々が「子供に障害はあるけれど、私だって働きたい。お金を稼ぎたい。ディズニーランドにも行きたい。」と声を挙げて千葉市に訴え続けて、やっとこの基準表をなくすことが出来ました。これは本当に嬉しいことでした。障害のある子供を抱えてもお母さんたちは仕事を止めずに済むようになりました。それから、「地元の学校に通わせたいのだけれど、その学校にエレベーターがないんです。何とかならないのでしょうか。」と何年もかかってお願いをし続けました。そして、ついに実現。障害のある子がいる小学校にはエレベーターが付くようになり、その上の中学校に上がる時にはエレベーターを設置してその子達を迎え入れるという素晴らしい千葉市になりました。学童保育についても、必要な数の指導員さんを配置していただくという温かいご配慮を頂いており、障害のある子たちがかなり住みやすい千葉市になってきたと思います。

でも県内を見ますと、他の市町村ではまだ千葉市のようなところは少ないようです。21世紀になってもう10年も経つのに、障害のある子は保育所やその他に入れないといったことがなぜ続いているのだらうかと思つくと、やはり学校の教育制度に原因があるのではないかとされています。国でもその制度を見直そうとする検討会議(教育制度改革推進会議)が開かれているところです。現在の日本では、法律で障害のある子どもは別な学校に行く教育制度になっています。障害者達が大きな反対運動をして分離教育を止めさせようとしたのですが、1979年に決まってしまうました。その体制が30年以上も続いています。そうすると親の世代も分けられた世界で生きていくことになり、親も子どもと同じ社会の中でも生活していくことが難しい世の中になってしまいます。

そのような中、教育の部分では今、非常に大きな動きがあります。そのひとつが平成19年から新しく始まった「特別支援教育」です。この制度では知的障害者だけでなくその範囲を広げ、今までは障害児とされなかった発達障害のあるお子さんも対象者となりました。それまではみんなと一緒に学級にいた生徒が、この制度によりみんなと同じ勉強から外されて、別な学級で別の勉強を丁寧に教えてもらうことになったのです。しかし、みんなと同じ勉強をしていないために高校進学を諦めて知的障害児用の特別支援学校(旧・養護学校)に行く子が急に増えてしまいました。その結果、今では学校も教室も足りなくなっています。支援学校は高校ではありませんので、勉強はほとんど無く作業と体力作りが主となります。本当は自分は普通の高校に入りたい、高校の勉強をしたいと願っていても叶わないのです。

そして、「別な」ところにいる子どもにはたくさんのお金が使われています。平成21年度の千葉県では普通学級で小学校から高校まで12年間で一人の生徒に736万円のお金が使われています。一方、特別支援学校では同じ12年間で7,223万円と約10倍です。人的配

置の面では、普通の学校は生徒 16 人位に先生 1 名ですが、特別支援学校では生徒 1.8 人に対し先生 1 名です。通学費や学用品費、修学旅行費用などは「分けられた」方には出ますし、しかも人手をかけて手厚い教育を受けられるということで、特別支援学校に流れてしまうのです。

でもこれだけのお金と人をかけても、普通学校も社会もあまり変わっていません。いない人のことは考える必要がないから、普通学校は変わる必要がなかったからです。「分けられた」方にお金をかけるのではなく、みんなで同じお金を使えるようにすれば、普通のお子さんがより手厚く見てもらえるでしょう。例えば看護師さんをより多く配置することにより学校全体の医療的な安全のレベルも上がるはずです。

現在の教育の仕組みは世界的にはとても古いものになっています。世界は障害のある子もない子も、地域の普通学級で勉強出来るように制度を変えてきています。日本が批准しようとしている国連の障害者権利条約でも、「分ける」教育は差別であるとはっきり言っています。しかし、親の願いも世の中の流れも障害者が普通学級で学べるようにお金も人手もかけてやって行こうとする一方で、「分けた」ところでやって行きたいという文部科学省や親の会の動きもあり、このふたつが拮抗しています。

学校が分けられると社会に出てから一緒に働き難くなりますし、また、お互いにどう付き合っよいか分からないというのが実際です。経営者様として皆さんもご自身の会社で障害者雇用を進めようとしても、社員さんの中でためらいがあったり、どうやって付き合っよいか分からないのかわからなかったり、進め難いということがあるのではないかと思います。一緒にいることでわからない部分も沢山あると思っています。学校の例ですが、今年4月から気管切開をした3人の子が看護師の配置がなされた普通学級へ入ったという新聞記事があります。県内では千葉市はじめ5つの市でこういった動きも出て来ています。また、「人工呼吸器の保育講師」という新聞記事もお配りしましたが、この平本歩さんは保育所から高校まで普通学級で過ごし、自分で就職活動をして週一回ではありますが就職をしたということです。昔であったら地域に出て来なかったであろう方、就職活動などしなかったであろう方も会社の門を叩くようになって来ています。「0点でも高校へ」の運動で千葉県では障害のある子が私の子供も含め90人以上も普通高校で学んでおり、これは全国的にも先進的です。この子供たちが目指すのは、障害があってもみんなの中になりたい、普通に生活したいということです。普通の子供の会社を叩くのです。

最後に、豊かさとは何かという話をさせていただきます。先ほどの人工呼吸器を外せない平本歩さんですが、在宅20周年記念の集まりにお誘いをかけたところ、全国から何百人もの人が集まったそうです。自身では何も出来ないがゆえに、沢山の人の手が必要となりその人が暮ら

しやすいように地域も考えるようになるのだと思っています。出来ないこともとても大事で、それが人のつながりの豊かさをつくるものだと感じています。

あまり上手なお話は出来なかったのですが、最近思っていることとお話しさせていただきました。今日は有難うございました。
(文責 瀬谷 研一会員)

もうすぐ千葉国体(第65回国民体育大会)が開催されます！

ゆめ半島
千葉国体



開会式

日時: 平成22年9月25日(土)

会場: 千葉マリンスタジアム

国体の目的と性格

国体は、広く国民の間にスポーツを普及し、国民の健康増進と体力の向上、地方スポーツの振興と地方文化の発展を目的とする、日本最大のスポーツの祭典です。

国体の歴史

国体は戦後の混乱期の中で国民に希望と勇気を与えるため、昭和21年に京阪神地方において第1回大会が開催されて以来、毎年各県持ち回りで開催されています。昭和23年第3回福岡県大会から都道府県対抗方式が確立し、天皇杯(男女総合優勝)と皇后杯(女子総合優勝)が創設されました。昭和63年第43回京都府大会から二巡目に入り、全国を東・中・西地区に分けて順に開催しています。千葉県においては、昭和48年に開催された第28回大会「若潮国体」以来37年ぶり2度目の国体開催となります。前回の「若潮国体」では「輝く心 輝く力 輝く太陽」をスローガンに掲げ、「親切で明るい郷土づくり、健康なからだづくり、住みよい環境づくり」を3本の柱に県民運動が展開されるなど、新しい郷土づくりの原動力となる大会として成功を収め、県民に大きな自信と希望を与えました。(千葉県ホームページより)



第2283回例会

日時⇒ 平成22年9月17日(金) 点鐘12:30

演題⇒ 『ガバナーご挨拶』

卓話者⇒ 国際ロータリー第2790地区
ガバナー 織田 吉郎様

第2284回例会

〈第3分区Bロータリー情報研究会〉

テーマ「私たちはなぜ週一度ロータリーに集うのか」

日時⇒ 平成22年9月24日(金) 点鐘14:00

会場⇒ オークラ千葉ホテル